

自民「抑止力高める」

本県参院議員 民主、政権を批判

安全保障関連法案が参院本会議で19日未明、与党などの賛成多数で可決・成立した。本県選出参院議員のうち、自民党議員は平和安全のための抑止力が高まり、戦争をしない国になるとして冷静に受け止めた。対して民主

党議員は「数の力」で押し切った安倍政権を厳しく批判し、同法案の廃案を目指して始動することを誓った。

自民党の岡田広氏は「世界情勢が変化する中で、法案は戦争するためではなく、抑止力を高めるもの。成立を機に平和外交を一層進

め、世界各国と連携、協調していくことが大事だ」と述べた。

平和安全法制特別委員会委員として同法案を審議してきた同党の上月良祐氏は「名実ともに戦争を抑止する法

案にしていく責任がある。日本の安全保障や繁栄のため、法律の運用に与党としての責任を持って当たる」と強調した。

一方、民主党の郡司彰参院議員会長は採決

で「反対」と声を上げて反対票を投じた。郡司氏は「無念、残念の気持ちだ。安倍政権はおかしい。この政治が続くことで日本に良いことはない」と語気を強めた。本会議後の議員総会でも「法案が間違っていたという状況をつくっていかう」と所属議員に呼び掛けた。

同党の藤田幸久氏も採決で「国民と共に法案に反対し、新しい戦いを進める」と声を張り上げた。藤田氏は国会外のデモを念頭に「新しい民主主義が現れた。自分で考え行動する国民の意思を生かし、法案が実行できないような戦いを続ける」と述べた。

(高岡健作)